

スコアシート		実施設計段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
		Q 建築物の環境品質				
Q1 室内環境			0.40			2.5
1 音環境		2.6	0.20			2.6
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40			
1.2 遮音		3.0	0.40			
1 開口部遮音性能		3.0	1.00			
2 界壁遮音性能						
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						
1.3 吸音		1.0	0.20			
2 温熱環境		2.0	0.47			2.0
2.1 室温制御		3.0	0.50			
1 室温		3.0	0.38			
2 外皮性能		3.0	0.25			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38			
2.2 湿度制御		1.0	0.20			
2.3 空調方式		1.0	0.30			
3 光・視環境						
3.1 昼光利用						
1 昼光率						
2 方位別開口						
3 昼光利用設備						
3.2 グレア対策						
1 昼光制御						
3.3 照度						
3.4 照明制御						
4 空気質環境		3.3	0.33			3.3
4.1 発生源対策		4.0	0.50			
1 化学汚染物質	JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	4.0	1.00			
4.2 換気		3.0	0.30			
1 換気量		3.0	0.50			
2 自然換気性能						
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50			
4.3 運用管理		2.0	0.20			
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50			
2 喫煙の制御		1.0	0.50			
Q2 サービス性能			0.30			2.8
1 機能性		2.4	0.40			2.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40			
1 広さ・収納性						
2 高度情報通信設備対応						
3 バリアフリー計画		3.0	1.00			
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30			
1 広さ感・景観						
2 リフレッシュスペース						
3 内装計画		1.0	1.00			
1.3 維持管理		3.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30			2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		2.8	0.30			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20			
2.4 信頼性		2.8	0.20			
1 空調・換気設備		3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20			
3 電気設備		3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5 通信・情報設備		2.0	0.20			

3 対応性・更新性			3.3	0.30		-		3.3
3.1 空間のゆとり			4.0	0.30		-		
1 階高のゆとり								
2 空間の形状・自由さ		0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3。	4.0	1.00		-		
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30		-		
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-		
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-		
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-		
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-		
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-		
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-		
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-		
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30		-		2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-		1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-		3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		-		2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50		-		
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50		-		
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-		3.0
LR1 エネルギー			-	0.40		-		3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m = 0.82	4.8	0.20		-		4.8
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10		-		3.0
3 設備システムの高効率化			2.4	0.50		-		2.4
4 効率的運用			3.0	0.20		-		3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-		
4.1 モニタリング			3.0	0.50		-		
4.2 運用管理体制			3.0	0.50		-		
集合住宅の評価								
4.1 モニタリング								
4.2 運用管理体制								
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-		2.9
1 水資源保護			3.4	0.20		-		3.4
1.1 節水		節水コマなどに加えて、省水型機器(節水型便器)を用いている。	4.0	0.40		-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-		
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-		
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-		
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60		-		2.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10		-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20		-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20		-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10		-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		「躯体+軽鉄+仕上げ材」により、躯体と仕上げ材が容易に分別可能	4.0	0.20		-		
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20		-		3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-		
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70		-		
1 消火剤			-	-		-		
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	4.0	0.50		-		
3 冷媒			3.0	0.50		-		
LR3 敷地外環境			-	0.30		-		3.0
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率93%。	3.2	0.33		-		3.2
2 地域環境への配慮			2.8	0.33		-		2.8
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-		
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25		-		
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25		-		
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-		
3 交通負荷抑制			3.0	0.25		-		
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25		-		
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33		-		3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-		
1 騒音			3.0	1.00		-		
2 振動			-	-		-		
3 悪臭			-	-		-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40		-		
1 風害の抑制			3.0	0.70		-		
2 砂塵の抑制			4.0	-		-		
3 日照障害の抑制			3.0	0.30		-		
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-		
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策			3.0	0.70		-		
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-		